

今週（6月25日から6月29日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、先週の国債大量償還を受け、日銀当座預金残高が引き続き390兆円台で推移する展開となった。

無担保コールO/N物は、日銀当座預金の積み上がりを背景に、引き続き調達意欲は限定的となった。先週同様に、都銀・信託・地銀・外銀・証券の調達が中心となり、出合いのレンジも横ばいの▲0.086～▲0.08%が中心となった。29日は期末要因から調達意欲が更に減退し、大幅な出し残りの展開となった。ターム物は1W以上の期日は期末越えであるため閑散であったものの、月末までの期日物は出しニーズが強く、▲0.07%台後半の出合いも散見された。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは29日に2W物・8,000億円がオファーされ、2,382億円（期落ち額2,382億円）と札割れとなった。

●レポ市場

GC、O/N物は、調達サイドがしっかりしており、レートの下がりにくい状況だった。前場を中心に、業者や信託を中心とした玉手当ての買いが▲0.13%程度で入る場面もあったが、後場に入ると大口の調達希望が入り、徐々にレートが切り上がる展開が続いた。警戒された6月末初の取引も、▲0.15%程度で小額が出合った後はやはりレートが上昇し、▲0.10%程度まで緩んだ。GCターム物は、週前半こそ四半期末越えの警戒感から、1Wで▲0.18%程度の気配だったが、週後半にかけてはレートが上昇した。

SC個別銘柄では、チーペストの10年340回にビッドの出入りが目立った。

●短国市場

今週の短国市場は、6月末越えの需要がピークアウトしたことから、次第に小甘い展開となり、閑散ながらも軟調に推移した。

25日に7,500億円でオファーされた短国買入オペは平均落札利回較差▲0.001%、按分落札利回較差▲0.002%と無難な結果となったが、その後は買いが薄く、全般的には軟調な推移となった。

29日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.14～▲0.129%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1319%、按分落札利回▲0.1263%と甘めの結果となった。

29日に発表された国庫短期証券の買入れ方針では、「金融市場に対する影響を考慮しながら1回当たりのオファー金額を決定する」と発表され、前月から表現に変更は無かった。なお、6月末の日銀の短国買入残高は16兆8,014億円となることが見込まれる。

●CP市場

今週のCP市場は、四半期末最終週にあたり、償還総額3兆4,000億円程度に対して、2兆9,000億円程度の発行となるなど、例年通りの償還超のマーケットとなった。6月末の発行残高の落ち込みは、3・9月末に比べると限定的であり、ノンバンク・商社・機械・電力等幅広い業態が期越えの大型発行を実施した。また、月初日スタートで機械・石油等が大口での発行を実施したため、7月2日の発行総額は1兆1,000億円程度にのぼるなど、引き続き期中はCPを活用していこうとする事業法人の姿勢が垣間見られた。発行レートに関しては、投資家・ディーラーの玉確保のニーズは底堅く推移しており、先週までの地合いと同様に0%から浅いマイナス圏での決着が中心となった。一部希少銘柄に関しては▲0.01%台での決着も散見された。

CP等買入オペは、26日に事前予定通りの2,500億円でオファーされた。今回のオペは四半期末スタートの買入となることから、レートが低下する予想も見られたものの、ディーラーの売却ニーズの強い銘柄が多く採用されたこともあり、平均落札レートは前回比横ばいの▲0.002%、按分落札レートにいたっては前回から上昇し▲0.005%の結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
6/25（月）	22,338.15	0.025	109.50	△ 0.073	△ 0.126	3,928,000
6/26（火）	22,342.00	0.030	109.60	△ 0.074	△ 0.115	3,933,300
6/27（水）	22,271.77	0.030	109.90	△ 0.073	△ 0.118	3,919,500
6/28（木）	22,270.39	0.025	110.05	△ 0.071	△ 0.118	3,930,700
6/29（金）	22,304.51	0.025	110.45	△ 0.069	△ 0.101	3,936,500

来週（7月2日から7月6日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
7/2 (月)	6月調査の日銀短観(概要及び要旨,日銀 8:50)				5月の米建設支出 6月のISM 製造業景況指数
7/3 (火)	6月のマネタリーベース(日銀 8:50) 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00)	10Y 22,000億円 7/4発行			5月の米製造業新規受注・出荷・在庫
7/4 (水)	石川県金融経済懇談会にて原田審議委員講演 7月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)				New York祝日(Independence Day)
7/5 (木)	長野県金融経済懇談会にて政井審議委員講演	30Y 7,000億円 7/6発行			6月のISM 非製造業景況指数
7/6 (金)	5月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 6月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 5月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 9:00) 5月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB3M 42,800億円 7/9発行	交付税借入 10,500億円 7/20借入		5月の米貿易収支 6月の米雇用統計

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
7/2 (月)	300	▲ 28,400	▲ 28,100	全店共通 国債買入 国債補完 ETF買入	▲ 2,400 1,400	2,400 9,700 100	11,200	▲ 16,900	TB3M発行▲43000償還41500 2Y発行▲21000
7/3 (火)	1,000	▲ 4,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	
7/4 (水)	0	▲ 47,000	▲ 47,000				0	▲ 47,000	法人税・消費税 年金保険料 国立大学法人運営費 10Y発行▲22000
7/5 (木)	0	1,000	1,000				0	1,000	
7/6 (金)	0	▲ 3,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	恩給 30Y発行▲7000
週 間 合 計	1,300	▲ 81,400	▲ 80,100	—	▲ 1,000	12,200	11,200	▲ 68,900	

7/2は日銀予想、7/3以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、期末要因が剥落するものの、引き続き調達意欲は限定的なものにとどまると見込まれる。

レボ市場は、四半期末を越えてレートの水準を探る展開が予想されるが、調達サイドの動向如何ではレートが上昇する可能性も考えられる。

短国市場は、6日に3M物の入札が実施予定となっており、四半期末越え後の投資家等の需要動向が注目される。

CP市場は6月末に発行残高を落とした企業が本格的に調達を再開することが見込まれる為、発行市場の動向が注目される。また、5日にはCP等買入オペが2,000億円で実施される予定となっている。

主要なイベントとしては、国内では2日に6月調査の日銀短観の公表、海外では6日に6月の米雇用統計などが予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入